

日本製鉄グループ内で発生した6件の災害を報告します。  
類似災害防止に活用下さい。

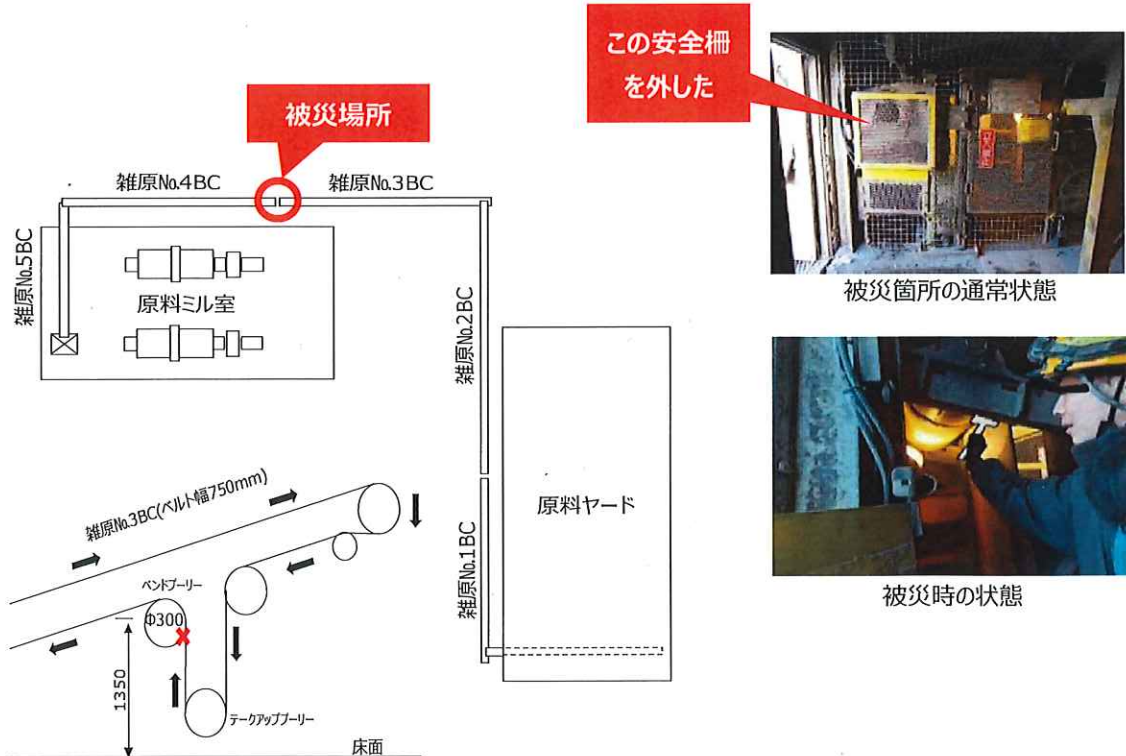
<日本製鉄グループ災害の概要>

1	1/28	日鉄セメント(株)室蘭工場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 21歳 日本通運(株)/日通室蘭運輸(株)</li> <li>・休業見込 未定</li> <li>・傷病名 右肘剥離骨折、右手首・右肩関節捻挫、右上腕擦過傷</li> <li>・概要 稼働しているベルトコンベアのバンドプーリー付着物を片手ハンマーで叩き落としていた際、右手を巻き込まれ被災した</li> </ul>
2	2/7	WHEELING – NIPPON STEEL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 24歳 OPERATION WAREHOUSE</li> <li>・休業見込 不明</li> <li>・傷病名 後頭部の打撲</li> <li>・概要 出荷作業時にレールカーから転落、後頭部打撲</li> </ul>
3	2/10	日鉄ステンレス(株) 山口製造所 周南エリア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 49歳 井原築炉工業(株) 徳山出張所</li> <li>・被災者 51歳 井原築炉工業(株) 徳山出張所</li> <li>・休業見込 2名死亡</li> <li>・傷病名 低酸素血症の疑い</li> <li>・概要 鋳型への溶鋼注入準備中に鋳型内で作業者が倒れた。</li> </ul>
4	2/12	戸畑共同火力(株) 戸畑共同発電所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 20歳 操業グループ発電 (交替)</li> <li>・休業見込 未定</li> <li>・傷病名 右足部Ⅱ度熱傷</li> <li>・概要 4号COG・BFGシールボットを確認中、トレス蒸気ドレン排水枡へ右足(ふくらはぎより下部)を踏み入れ火傷を負った。</li> </ul>
5	2/14	日鉄エンジニアリング株式会社 (株)神戸製鋼所加古川製鉄所3高炉32号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 73歳 日鉄エンジニアリング(株)/(株)広築(1次)/パスコ(株) (2次)</li> <li>・休業見込 未定</li> <li>・傷病名 右下腿圧挫創、右膝挫創、右足間接三角じん帯損傷、右足大腿圧挫創、右前脛腓骨頭骨折</li> <li>・概要 トラック(4t積)にフォークリフトで可燃物が入ったフレコンバックを積込中、積込を終え移動しようとしたフォークリフトの左後輪と被災者の右足が接触し被災。</li> </ul>
6	2/16	名古屋製鉄所 コークス工場 2コークス炉 No3 押出機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災者 29歳 山九株式会社 株式会社副島工業</li> <li>・休業見込 30日</li> <li>・傷病名 脊髄損傷</li> <li>・概要 取り外そうとしたデッキの手摺が倒れ、被災者のうなじに当たった</li> </ul>

## 休業災害速報(協力会社)

発生箇所	日鉄セメント(株)室蘭工場		発生日時	2022年1月28日(金) 05時00分頃		
発生場所	雑原No.3ベルトコンベア		作業区分	定常作業		
被災者	所属	日本通運(株)/日通室蘭運輸(株)	役職	一般	勤続年数	2年8ヶ月
	氏名	A氏	年齢	21歳	作業経験	5ヶ月
			性別	男	(構内経験)	2年8ヶ月
傷病名	右肘剥離骨折、右手首・右肩関節捻挫、右上腕擦過傷				休業見込み	未定
被災概要	稼働しているベルトコンベアのバンドプリー付着物を片手ハンマーで叩き落としていた際、右手を巻き込まれ被災した					
災害状況	1/27	被災者Aは共同作業4名と中央制御室で始業ミーティングに参加。				
	23:00	<b>【当日の役割】</b> 被災者A：原料輸送系統見回り作業 作業者B：全般作業(班長) 作業者C：天井クレーン運転作業 作業者D：アンローダー運転作業 作業者E：CFW周辺作業				} 全員基本単独作業
		以降、被災者Aは被災時刻まで休憩を挟みながら当該作業に従事。				
	1/28	珪石を原料ヤードより原料ミルホッパーへベルトコンベア輸送中、点検中の被災者Aが雑原No.3ベルトコンベア(以下BC)バンドプリーへの原料付着に気づき、BC稼働中にもかかわらず安全柵を外し、片手ハンマーでプリー付着物を叩き落としていた際、右手をバンドプリーとコンベアベルト間に巻き込まれた。				
05:00	被災者Aは呻嗟に手を引き抜き、中央制御室へ被災したことを無線で報告した。					
05:10	作業者B(班長)および製造職場長が現場に到着し、中央制御室へ救急車の出動を要請。					
05:45	製鉄記念室蘭病院へ送院。 ※診察の結果、入院の必要性なく通院治療中(就労可否については2/7受診時判明)。					

### <発生状況図>



2022年2月8日

WHEELING-NIPPON STEEL

### 休業災害速報(社員)

発生事業所	WHEELING-NIPPON STEEL		発生日時	2022年2月7日(月)15時 30分頃		
発生場所	TCA北側 レールカー引込線付近		作業区分	定常作業		
被災者	所属	OPERATION	役職	梱包出荷	勤続年数	0年8ヶ月
		WAREHOUSE	年齢	24才	作業経験	0年 8ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男	(構内経験)	( 年 ヶ月)
傷病名	後頭部の打撲			休業見込み日数	不明	

災害の概要 **出荷作業時にレールカーから転落、後頭部打撲**

災害状況	14:30 被災者Aは勤務を開始した。
	14:35 被災者Aは共同作業者Bと出荷作業を開始した。
	被災者A: レールカー上でコイル積み込み後に、幅固定プレートをスライドさせて固定
	共同作業者B: 出荷コイルのクレーンでの積み込み操作
	15:30 Bが3コイル目をレールカーに積み込み後、Aはレールカー上で幅固定プレートを固定。
	15:32 Aがレールカー内側からレールカー外周にあるステップに移動する際に、ステップから足を踏み外して、転落。
16:10 救急車+ドクターヘリにてピッツバーグ市内の病院へ緊急搬送	

(発生状況の図、写真など)

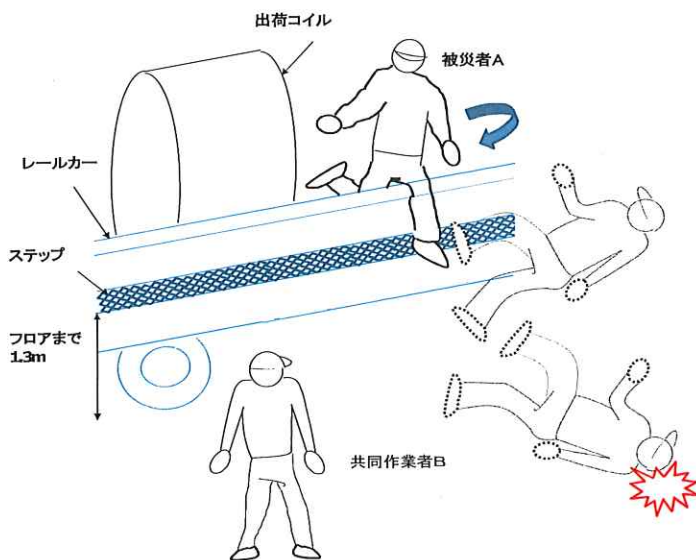


図1. 被災時のイメージ

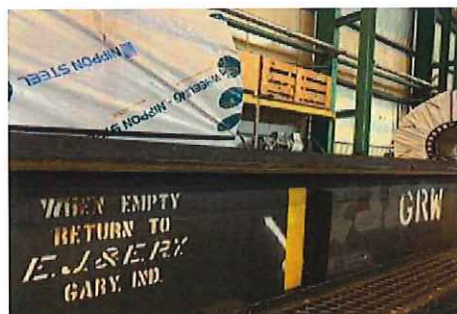


写真1. 被災場所



写真2. レールカー全体(別途撮影)

[様式-1]

本災害は、休業災害として取り扱っていましたが、被災者Aが 2/20、被災者Bが2/25にご逝去されたことから、2名の死亡災害として、取扱うことと致します。

2022年2月28日  
日鉄ステンレス㈱

## 死亡災害速報(協力会社)

発生事業所	山口製造所 周南エリア		発生日時	2022年2月10日(木) 11時25分頃		
発生場所	周南製鋼工場 インゴット注入場		作業区分	非定常作業		
被災者	所属	井原築炉工業㈱	役職	一般	勤続年数	18年 3ヶ月
		徳山出張所	年齢	49歳	作業経験	15年 0ヶ月
	氏名	A氏	性別	男	(構内経験)	(18年 0ヶ月)
傷病名	低酸素血症の疑い				休業見込み日数	死亡
被災者	所属	井原築炉工業㈱	役職	班長	勤続年数	20年 3ヶ月
		徳山出張所	年齢	51歳	作業経験	15年 0ヶ月
	氏名	B氏	性別	男	(構内経験)	(20年 0ヶ月)
傷病名	低酸素血症の疑い				休業見込み日数	死亡
災害の概要	<b>鑄型への溶鋼注入準備中に鑄型内で作業者が倒れた。</b>					
災害状況	7:00頃 被災者A、Bは作業員C、DとTBMを実施し、鍋整備作業に従事した。					
	11:00頃 被災者A、Bを含む作業員4名は溶鋼の注入開始予定時刻が近づいてきたため、一旦鍋整備作業を中断し、注入準備作業を開始した。被災者Bは鑄型内へのアルゴン(Ar)ガスシール作業を開始した。					
	11:20頃 被災者Aは#1鑄型の上部に置いてあった耐火ボードが鑄型内に落下したことを発見した。					
	11:23頃 作業員Cは中間デッキ上から鑄型内の状況を確認するためArガスシールを停止し、被災者Bに状況を報告した。被災者Aは落下した耐火ボードを取り除くために準備した脚立を鑄型内に立て掛け、鑄型内に入った。					
	11:25頃 被災者Bおよび作業員C、Dは被災者Aが鑄型内で倒れていることに気付いた。					
	11:26頃 被災者Bは救助のため鑄型内に入り倒れた。					
	11:30 救急車を要請した。					
(発生状況の図、写真など)						
<p>図1 被災時の状態</p>			<p>図2 被災時の作業員配置</p>		<p>注入デッキ側から見た鑄型セット状態</p>	

## 休業災害速報(社員)

発生箇所	戸畑共同火力㈱ 戸畑共同発電所		発生日時	2022年2月12日(土) 20:40頃 (天候:曇り)		
発生場所	4号NO.3COG・NO.3BFGシールポット間		作業区分	現場パトロール		
被災者	所属	戸畑共同火力(株)	役職	一般	勤続年数	1年 11ヶ月
		操業グループ発電(交替)	年齢	20	作業経験	1年 11ヶ月
	氏名	A	性別	男	(構内経験)	(1年 11ヶ月)
傷病名	右足部Ⅱ度熱傷				休業見込み日数	未定
災害の概要	4号COG・BFGシールポットを確認中、トレス蒸気ドレン排水枡へ右足(ふくらはぎより下部)を踏み入れ火傷を負った。					
災害状況	16:30 始業前ミーティング実施。					
	19:30 被災者 A、同僚 B 2名にて4号凍結防止対策箇所の確認作業に着手。 (服装:作業着、ヘルメット、安全靴、脚絆、手袋、眼鏡(矯正用))					
	20:40頃 被災者 A がNo.3BFGシールポットの凍結防止状況の確認後、隣にあるNo.3COGシールポットへ移動する際に、足元にあったNo.3COGシールポットとNo.3BFGシールポットの給水管凍結防止用トレス蒸気のドレン排水が溜まった排水枡(枡サイズ:縦・横500mm,最深部300mm 温度:88℃)に右足を踏み入れた。この時同僚 B は、凍結防止状況をチェックシートに記入していた。 ・現場に照明は有ったが、暗い状況だった。(2名共懐中電灯を持参も、排水枡に気付かなかった)					
	20:45 被災者 A が、自分で脚絆と安全靴と靴下を脱いだところ、同僚 B は足首廻りの皮膚の剥がれが広範囲に及んでいる状況を確認したため、保安センターに救急車(公設)を要請した。					
	20:48 同僚 B は、被災状況を副長へ連絡。 中制室より、冷却用の氷及び担架を持って、同僚2名が現場に急行。					
	20:52~ 上司、関係先へ連絡。					
	20:58頃 患部を氷水で冷やししながら、現場から事務所前まで担架で搬送。(救急車到着まで氷水での冷却継続)					
	21:06 事務所前に救急車到着、21:10より搬送。(搬送先:北九州総合病院)					
	22:30 被災者 A から診断状況の連絡有り。 ・病院にて体温が37.8℃ありコロナウイルス感染の可能性有りの為、PCR検査を受検し、応急処置のみ実施。(応急処置内容:患部洗浄、軟膏塗布、ガーゼ及び包帯で保護)					
	23:10 PCR結果⇒陰性確認 <参考> 2/12 12:00…36.3℃(出社前)、2/13 8:00…36.3℃					

(発生状況の図、写真など)



2022年 2月15日

各位

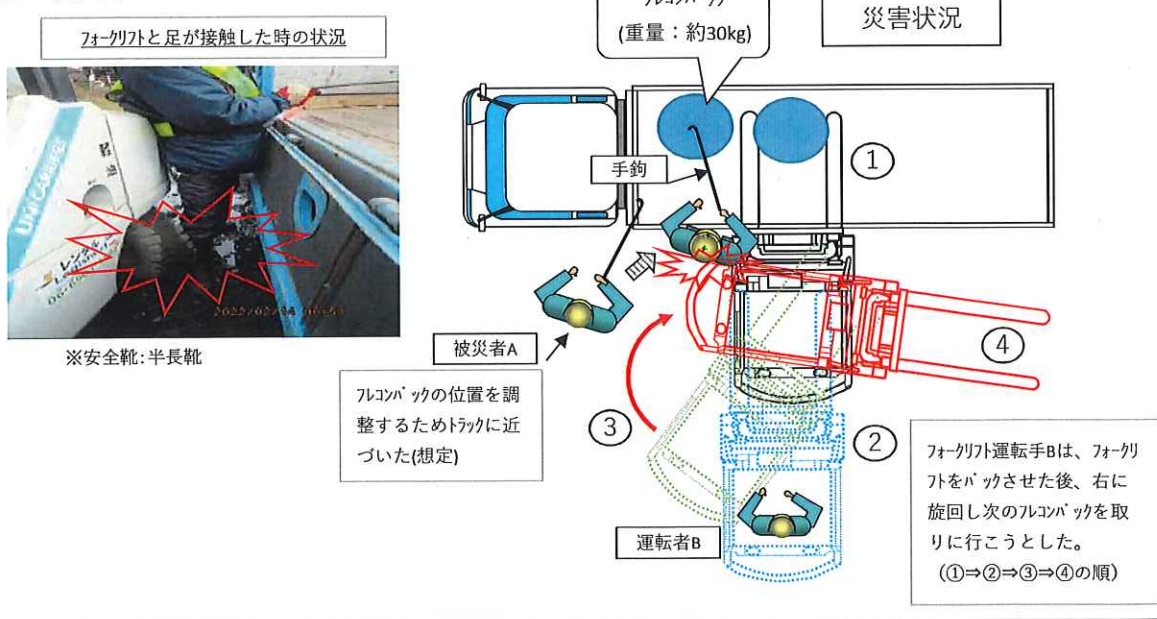
安全衛生・環境部長

### 休業災害速報(第一報)

発生箇所	製鉄プラントセクター		発生日時	2022年2月14日(月) 8時27分頃	
発生場所	(株)神戸製鋼所加古川製鉄所3高炉32号熱風炉改修工事		区分	建設工事	
被災者	所属	日鉄エンジニアリング(株)／(株)広築(1次)／ パスコ(株)(2次)	役職:	一般	勤続: 11ヶ月
	氏名	A 氏	年齢:	73才	経験: 11ヶ月 入現日: 2021年3月26日
傷病名	右下腿圧挫創、右膝挫創、右足間接三角じん帯損傷、右足大腿圧挫創、右前脛腓骨頭骨折			休業見込み	未定
被災概要	トラック(4t積)にフォークリフトで可燃物が入ったフレコンバックを積込中、積込を終え移動しようとしたフォークリフトの左後輪と被災者の右足が接触し被災。				

発生状況	8:00	全体作業ミーティングを実施。
	8:15	被災者Aは同僚2名と当日作業のTBM、KYを実施。
	8:20	被災者Aは、運搬用トラック(4t積)を仮置き場に停車させた。
	8:27	フォークリフト運転者Bは、可燃物が入ったフレコンバックをフォークリフトにて、トラック荷台へ積み込んだ。運転者Bは、次のフレコンバックを取りに行くため、フォークリフトを一旦バックし、その後、右旋回させた。その際、フォークリフトの左後輪が、被災者Aの右足に接触した。
		※(想定)被災者Aは、トラック荷台のフレコンバックの位置を手鉤で調整するためにトラック荷台に近づいた。
	8:38	救急車要請
	9:17	救急車現場出発
	9:40	中谷整形外科着後診断(レントゲン、MRI)
	18:00	検査の結果、右下腿圧挫創、右膝挫創(3針縫合処置)、右足間接三角じん帯損傷など ※じん帯損傷箇所は、足の腫れが引き次第手術を予定。
		※可燃物:耐火煉瓦の梱包材(段ボール、プラスチック製バンド等)

<発生状況図>



### 休業災害報告書(協力会社)

発生箇所	名古屋製鉄所		発生日時	2022年 2月 16日(水) 17時00分頃		
発生場所	コークス工場 2コークス炉 No3押出機		作業区分	修理作業		
被災者	所属	山九株式会社	役職	一般	勤続年数	5年 2ヶ月
		株式会社副島工業	年齢	29才	作業経験	5年 2ヶ月
	氏名	A 氏	性別	男	(構内経験)	(5年 2ヶ月)
傷病名	脊髄損傷		休業見込み日数	30日		

災害の概要 取り外そうとしたデッキの手摺が倒れ、被災者のうなじに当たった

8:30 始業前のTBM-KY完了後、被災者A、作業指揮者B、作業員C、D、工事責任者Eは、2コークス炉No3押出機のバンタメンテデッキ補修作業を開始した。

16:30 作業指揮者Bは、被災者A、作業員C、Dと走行フレーム上のデッキ取外し作業を開始した。作業指揮者Bは、デッキに吊りビースを溶接した。

16:40 作業指揮者Bと被災者Aは、デッキの上部にチェーンブロックを設置し、仮吊りした。被災者Aは、デッキ下部の柱①をガス溶断した。

16:42 作業指揮者Bは、デッキ及び手摺の中棧②、デッキ下部の柱③をガス溶断した。

16:50 作業指揮者Bは、デッキの切り離し確認のためチェーンブロックを巻き上げたが、デッキの手摺④と昇降用タラップの手摺が繋がっていたため、作業員Cにガス溶断を指示した。

16:55 作業員Cがガス溶断後、作業指揮者Bは、デッキの切り離しを確認した。作業指揮者Bは、被災者Aに巻き下げ時のデッキと昇降用タラップ手摺の干渉確認を指示した。

17:00 デッキを100mm程度下げた時に手摺が倒れ、被災者Aのうなじに当たった。

17:05 救急車を要請した。

図1 被災時のデッキ・手摺の状況

図2 デッキ平面図(被災前)

図3 デッキ側面(被災時)

写真1 撤去前のデッキ

写真2 倒れた手摺

手摺が倒れた

ガス溶断箇所

折損箇所

2コークス3号押出機 工事責任者E

走行フレーム

デッキ

作業指揮者B

作業員C

作業員D (火気監視人)

被災者A

手摺が倒れた

被災者A

走行車輪

手摺寸法:2,030mm×1,100mm  
手摺重量:23Kg

デッキ寸法:1,830mm×680mm

GL+1,900mm

折損箇所